

新事業開発部門

New business development

メッセージ



執行役員
新事業開発部門長

やま だ まさ ひで
山田 雅英

私たちの役割は、“2030年度以降のデンカを支える新事業・新製品を継続的に創出・実績化すること”です。これを実現するためには、新事業の提案（種まき）、インキュベーション（育成）、実績化（刈り取り）の3つのステージを並行して推進しなければならず、生産技術部門を含む関連事業部門、各事業所と緊密な連携を進めてまいります。

一方で新事業開発には必ず“不確実性”が付きまといます。常に挑戦者の立場を忘れず、客観的データと論理的類推に基づく仮説検証によって、新事業における不確実性を乗り越え、必ず大きな成果の創出につなげてまいります。

研究開発方針

研究開発効率を向上させ、製品開発力を飛躍的に強化することを目指しております。その実現に向けて、生成AI、データサイエンス、MI/BI/PI、実験自動化を駆使した研究開発の大幅な向上に取り組みます。

経営計画「Mission 2030」における戦略（「Mission 2030」実現に向けたロードマップ）

【2025年度実績】

新事業“10個の種”の提案
6テーマで具体的なユーザーへのサンプル供試を実施

メガトレンドに沿った研究開発の強化・推進
約10%に相当する研究テーマの検討中止を実施
→メガトレンドにリソースを集中

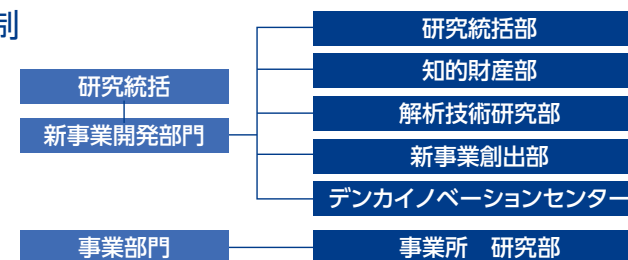
【2027年度目標】

新事業の実績化開始（試験品有償販売含む）
・実験自動化の一部導入
・研究開発プラットフォームの運用
・研究テーマ・リソース管理DBの運用開始

【2030年度目標（ありたい姿）】

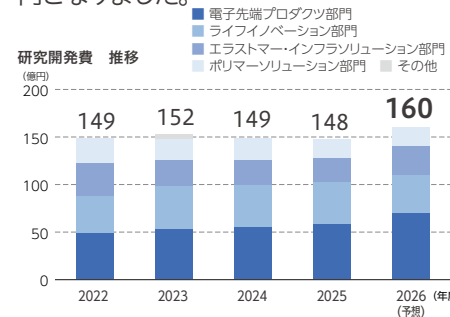
営業利益最大で30億円
“新事業提案→インキュベーション→実績化”が継続的に進捗する仕組みの定着

推進体制



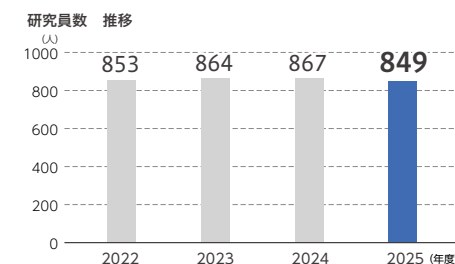
研究開発費（連結）の推移

2022～2024年度の研究開発費は平均150億円／年となり、2025年度は148億円となりました。



研究員数（連結）の推移

2025年度の研究員数は849名となりました。



知的財産の取り組み

1 知財Vision

MISSION

社内外に高付加価値な無形資産を提供し、企業価値を直接・間接的に高めることに集中する。

PURPOSE

知財力とスペシャリティとの融合により、事業価値創出へ導くための羅針盤となる。

CORE VALUE

Specialty : 一人ひとりが希少価値を持つ人財になります。

Diversity : 異なるバックグラウンドや視点を受け入れ、共感し、共に成長します。

Co-creation : 互いに思いやりを持ち、真摯に仕事に向き合います。

2 知財価値最大化に向けた活動

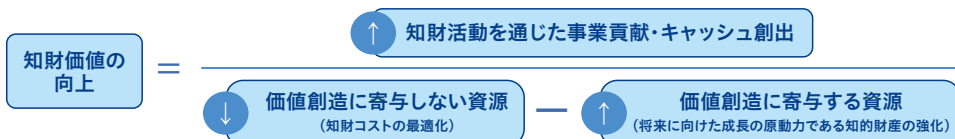
① 経営計画「Mission 2030」実現のための知財戦略

当社は、知的財産を事業の安定化および持続的成長を支える重要な経営資源と位置づけ強化しています。

従来の知財活動は、研究成果や開発製品の保護を主目的としていましたが、現在は事業部門・研究部門に知財担当者を配置し、知財部との「三位一体活動」により、事業価値創出へ貢献する活動へと転換しています。

また、各部門長および事業部門長、研究部門長と中長期の知財戦略を議論する「部門別知財戦略委員会」を毎年開催し、その内容を踏まえた「知財戦略審議会」および取締役会への報告を通じて、事業戦略と整合した知財ポートフォリオ運営を推進しています。

さらに、保有知的財産については、価値創造への貢献度に基づく適正化を進めるとともに、将来の成長を牽引する資源を強化しています。これにより、知財活動を通じた事業貢献、キャッシュ創出を実現していきます。



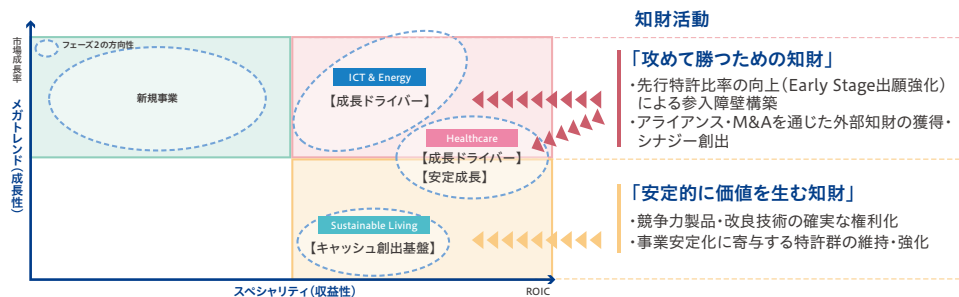
② 事業戦略の実現に向けた知財活動

「Mission 2030」フェーズ2では、事業領域ごとに以下の戦略を設定しています。

・ICT & Energy: 成長ドライバー (成長投資領域) ・Healthcare: 成長ドライバー + 安定成長 (収益拡大領域)

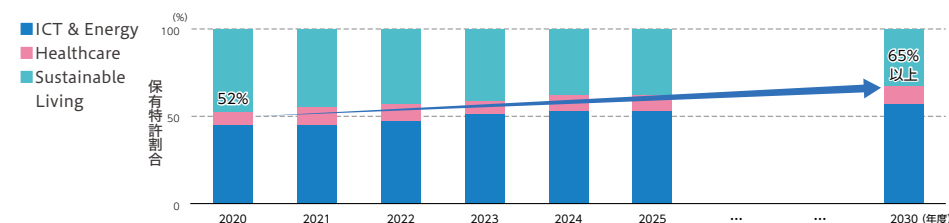
・Sustainable Living: キャッシュ創出基盤 (ポートフォリオ再構築領域)

知財活動においても、これらに対応した戦略を次の通り位置付けております。



さらに、全社横断で知財ポートフォリオの最適化 (選択と集中)・戦略領域への資源配分シフトを継続的に実行しています。その結果、2020年度と比較して、保有特許に占めるICT & EnergyおよびHealthcare分野の構成比は52%から増加しており、成長領域へのポートフォリオ転換が進展しています。

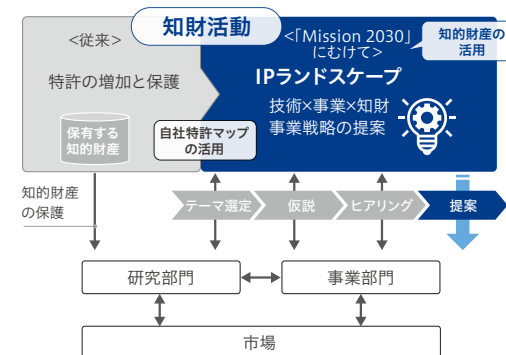
今後も、事業領域毎の戦略により、知財面でも「稼ぐ力の再構築」を進めていきます。



③ IPランドスケープの活用「攻めの知的財産活用」

国内において知財情報の重要性が高まる中、2018年頃から知財業界全体で「IPランドスケープ」の活用が広く浸透してきました。当社においても2020年より取り組みを開始しています。

現在は、幅広い知財情報の解析に生成AIを活用し、技術・事業・知財を融合させた事業戦略の提案を行っています。さらに、M&Aに資する情報提供に加え、既存事業の強みを起点とした「染み出し領域」の深化にも取り組んでいます。これらの活動を通じて、知財戦略が持続的なイノベーション創出の原動力となるよう、取り組みを推進しています。



3 外部からの評価

当社の知的財産は、LexisNexis 社による「特許価値成長力ランキング」で2025年に11位、Patent Result 社が公表する「化学業界 特許資産規模ランキング2025」で7位と高い評価を獲得しており、当社の知財力の客観的指標として裏付けられています。

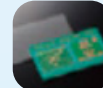
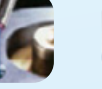
技術プラットフォーム図

コア技術を起点に、価値創造領域を拡大し、未来を切り拓く

デンカの価値創出を支える無形資産の一つが、長年培ってきたコア技術です。社会課題の解決に挑む中で磨かれてきたこれらの技術は、さまざまな事業や製品を生み出してきました。今後は、コア技術とプロセス・プラットフォーム技術を融合・進化させ、メガトレンドを捉えた3つの注力分野を中心に、新たな製品や価値の創出につなげていきます。

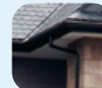
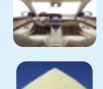
ICT & Energy



 窒化ホウ素粉末	 アセチレンブラック	 球状アルミナ・球状シリカ	 窒化ケイ素粉末	 アロンブライト	 窒化ホウ素成型品
 SNプレート基板	 アルシンク	 エミッター	 スネクトン®	 HITTプレート	 ハードロック OP/UV
 放熱シート	 エレグリッド	 ハードロック剤	 ビニテープ	 サーモフィルムALS	

Sustainable Living



 ボパール	 炭酸化混和材 LEAF	 特殊混和材	 クロロプレンゴム
 透明樹脂	 レコルト®	 トヨドレン	 雨どい
 耐熱樹脂	 Toyokalon	 BOPSシート	 クリアレン

Healthcare



 インフルエンザワクチン	 抗原迅速診断キット (インフルエンザ、 新型コロナウイルス等)
 臨床化学検査試薬	 ウイルス検査試薬

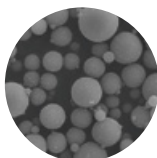
プロセス・プラットフォーム技術

 無機材料加工 単結晶加工・焼結 無機配合・切断加工	 配合設計 有機配合・無機 配合有機・無機複合化	 高分子加工 積層・二軸延伸 表面加飾 紡糸・塗工・異形押出	 ケミカル リサイクル	 精製・製剤化	 固相化・ デバイス化
--	--	---	--	---	--

コア技術



高温無機合成
高温制御
雰囲気制御



無機粉末合成
形態制御
組成制御



高分子合成
アニオン重合
ラジカル重合
重合制御



バイオテクノロジー
培養、抗原抗体技術
遺伝子組み換え

新事業創出 新事業候補10テーマの取り組み

ICT & Energy、Healthcare、Sustainable Livingの各領域を中核に、新事業候補テーマの創出に継続的に取り組んでいます。当社のコア技術に、スタートアップ、アカデミア等とのオープンイノベーションを融合し、事業化を見据えた価値創出を目指します。本テーマ群を2030年度以降の事業ポートフォリオを支える中長期戦略の一環と位置付け、持続的成長と収益基盤の強化を推進していきます。

デンカ
イノベーションセンター
新規材料研究部
うちだ ひかり
内田 光



3.次世代高放熱フィラー（コア技術×スタートアップ連携）

当社コア技術を基盤とし、スタートアップとの連携を通じて、熱伝導性能および信頼性の高度化を図り、競争優位性の強化を進めています。具体的には、窒化ホウ素ナノチューブ(BNNT)の共同開発に加え、異種材料の複合化やコーティングによる表面改質技術など、多様なアプローチによる性能向上に取り組んでいます。

新事業創出部
かけがわ あやこ
掛川 彩子



5.航空宇宙用材料（コア技術×オープンイノベーション）

宇宙開発におけるエコシステム構築が世界中で活発化する中、固有の無機材料のコア技術を、オープンイノベーションを通じて発展させて、極限環境向け材料の開発を進めています。世界の宇宙開発への貢献を目指します。

新事業創出部
やました ゆうか
山下 優香



6.次々世代通信用材料（コア技術×アカデミア）

2030年以降の6G商用化を見据え、低誘電率・低誘電正接を実現する次世代樹脂の開発を、アカデミアとの連携により推進しています。独自のコア技術を高度化することで、高周波領域における信号伝送損失の低減に貢献し、高速通信のさらなる進化を支える材料の実用化を目指しています。

有機材料研究部
なかむら ゆうや
中村 友哉



8.既存材料のバイオ機能材料への応用（コア技術）

当社のコア技術である有機・無機・バイオの知見を融合し、バイオ機能材料の開発を推進しています。パーソナルケア分野における人々の生活の質(QoL)向上に加え、細胞培養領域では再生医療を支える材料開発に取り組むなど、当社の新規事業をけん引するテーマの創出を進めています。

新事業創出部



かじわら けいご 原 圭梧
はらだ たかふみ 原 貴文
リー シン ヨン Lee Shin Yong

9.デジタル診断（コア技術×スタートアップ連携）

体外診断薬のコア技術に、スタートアップのデジタル・AI技術を融合することで、診断精度の向上と疾患管理の高度化を推進しています。データに基づく新たな価値創出を通じて、医療ニーズへの対応力を高めています。

ICT & Energy

フェーズ 2 (2026-2028)

- 1.導電性高分子(CVC:クレバ)
- 2.高性能・多機能樹脂
(CVC:AresMaterials)
- 3.次世代高放熱フィラー
(CVC:NaiEEL Technology)
- 4.次世代エネルギー用材料

最先端サーマルマネジメント
先端半導体、電力インフラ

フェーズ 3 (2029-2030)

- 5.航空宇宙用材料
- 6.次々世代通信用材料
(アカデミア)

2031～

高信頼領域への展開:使用環境の
厳格化に応じた段階的な用途拡張

Healthcare/Sustainable Living

フェーズ 2 (2026-2028)

- 7.技術ライセンス
- 8.既存材料のバイオ機能材料
への応用(アカデミア)
- 9.デジタル診断
(CVC:AeviceHealth)

診断・臨床試験事業
強化、拡大

フェーズ 3 (2029-2030)

- 10.CO₂利用技術
(アカデミア)

2031～

素材技術の応用によるサステナブルな
ヘルス&パーソナルケア領域への拡張